

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

夢みらい

矢吹 安子、森田 充、小川 吉則

(2) 実施日：令和2年2月17日（火）14時00分～15時30分

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

- ・自主防災組織率61.2%・活動カバー率74.2%
- ・既存の自主防災組織の活動状況はリーダー研修会などで共有され、出前講座や様々な相談に対して助言をするなどして活動状況の把握、レベルアップに努められている。

(2) 本市における課題

- ・高齢化やそれに伴う役員の担い手不足
- ・本市の自主防災組織には連絡協議会などの横串機能が未設置

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目：中越大震災後の防災計画への取り組みについて

（中越大地震からの教訓と小千谷市の防災対策）

(2) 選定地1：新潟県小千谷市

【3. 調査結果】

(1) 内容

2004年10月23日に発生した中越大地震を経験され教訓からの防災対策（そなえ）について『おじや震災ミュージアムそなえ館』にて館長から講義を受けました。地震発生の当日は震度5弱以上18回、余震が153回あり恐怖の体験をされたお話しを聞きました。

そなえ館では最大震度7から間をおかず、6強が2回きた疑似体験をさせて頂き、本当に何も出来ず椅子にしがみつくのが会派の皆さんも精一杯でした。

また、事前に指定されていた避難所が倒壊し使えず、ビニールハウスや車の中で避難生活をされていた記録が残されていました。臨時の避難所の把握に苦慮されたとのことでした。

また、避難所に避難しない住民への配食方法などにも苦慮されたとのことでした。消防団も活躍され、負傷者、要援護者の救出救助活動、通電時の防火広報などにもつとめられ通電時の火災はなく大きな成果があったようです。り災証明書の発行業務にも苦慮されたとのことでした。震災直後に調査担当職員研修を実施（神戸市等応援）したが、均一性・

公平性の確保には事前の研修が必要と痛感されたそうです。

(2) 考察

今回の視察を終え平時のそなえの重要性を再認識しました。震災の発生した10月23日を毎年、記憶を忘れることなく、次世代に引き継ぐため「中越大震災の日」と条例制定されています。本市においても近年、大きな震災はないものの「災害はなくせないが犠牲・被害はなくせる」という思いを市民の皆様にも伝わる活動をしていく必要があると思います。小千谷市は自主防災組織率が100%（95地区）です。

本市においても組織率100%に向けて何が課題なのか、しっかりと把握し早急に対応していく必要があると考えます。今後も夢みらい会派として想像・創造の観点から防災に関して提案し安心、安全なまちづくりに寄与していきたいと思えます。

政務活動費活動報告（視察）

(3) 出席者（会派名・個人名）

夢みらい

矢吹 安子、森田 充、小川 吉則

(4) 実施日：令和2年2月18日（火）10時00分～12時00分

【1. 調査の目的】

(3) 本市における現状

彦根市は11万人の街として、子育てから高齢者の健康問題まで、多くの事業に取り組んでいる。しかし、それぞれの事業が単独で機能しているのが現状である。

(4) 本市における課題

市民が無料、又は低額な料金で利用できる施設・交流の場が少なく、子どもから高齢者まで幅広い人達が一堂に集える場所が必要となっている。

【2. 調査地選定理由】

調査項目 まちの駅・健康の駅・赤ちゃんの駅 市民交流センターについて

(3) 選定地1：新潟県見附市 市民交流センター「ネーブルみつけ」

【3. 調査結果】

(3) 内容

見附市では、平成12年に撤退したスーパーマーケットを購入し、改修して平成16年7月に市民交流センターとしてオープンする。

「いきいき健康づくりセンター」「まちの情報コーナー」「みらい市場」「子育て支援センター」「障がい者支援センターあさひ」「喫茶風来人（ふらっと）」「まちなか西ふるさとセンター」等のスペースを設け、年間約50万人が利用する市民の交流の場となっている。

(4) 考察

広々とした空間に、様々な事業・コーナーが設置されており、誰でも自由に利用できるようになっている。市民（特に高齢者）が、あそこに行けば何かやっている、あそこに行けば楽しい時間が過ごせると思える場所があることが、大変素晴らしいことに感じられた。

彦根市でも、市の中心部に市民が気兼ねなく自由に寄り合える場所があれば、交流のスペースとして貴重なものになると思う。見附市の市民交流センターが、その見本の一例になるのではないかと感じた。